



2020 年度  
第 42 号

# 体育市民連帯 ニュースレター

1  
大韓体育会長候補たち  
「私が体育人のための適任者」  
来年 1 月選挙を前に 5 人届出

李ギフン会長プレミア付き出馬  
カン・シヌク、ユン・ジュンサン  
「改革」挑戦状  
ジャン・ヨルダン前議員も出馬

大韓民国スポーツの  
根本的变化を  
皆さんと共に  
作って行きたいです  
体育市民連帯と共に  
していただけますか？



2  
ジャン・ヨンダル  
又石大名譽総長  
大韓体育会長選挙  
出馬宣言



3  
スポーツ倫理センター  
泣斬馬謖の剣を  
振り下ろす



01 ハンギョレ 2020. 12. 01

体育会長候補「私が体育のための適任者」



スポーツ界「大統領選挙」である大韓体育会長選挙、火花が散っている。

体育人の変化欲求がそれほど大きい。体育人の自尊心と体育団体の自律性回復の問題もかかっている。大韓体育会が財政的に国家から独立するには限界がある。しかし、韓国体育の求心点に人的・物的資源を効率的に組織して行く役割などするべき事は多い。

1日現在、選挙に出場意向を示した候補は李ギフン大韓体育会会長、カン・シヌク檀国大教授、ユン・ガンロ国際スポーツ外交研究院長、ユ・ジュンサン大韓ヨット協会会長など4人である。12月末に候補者正式登録が行われて、選挙は来年1月18日に行われる。しかし、本格的なレースはすでに始まっている。〈ハンギョレ〉は4人の候補者に体育改革の主要課題である学生選手週末大会全面化、体育会と大韓オリンピック委員会（KOC）の分離、スポーツ人権、体育人雇用の4つの事案について意見を求めた。

■週末大会、カン・シヌク「公論化などが必要」

韓国エリートスポーツはこれまで学校が代表選手排出の水源地の役割をしながら選手を補充した。国は、体育特技者制度など上級学校への進学特例を介してこれをシステムにした。しかし、学生選手の授業欠損と引退後の社会落伍など各種の問題が発生した。昨年スポーツ革新委員会は、このような問題を改善するために学生選手の平日大会禁止と週末の大会全面化を2021年までに実行するように勧告した。しかし、週末の大会をしようとする場所確保の問題と選手休息の問題、費用の問題などが提起されている現実である。

これに対してカン・シヌク教授は「指導者の休憩権、場所、費用、種目、進路特性などを考慮しなければならない。急激な変化には大小の抵抗が伴うものだ。スポーツの様々な分野の関係者と公論化を通じて深い議論が先行しなければならない」と述べた。李ギフン会長は「施設確保の難しさ、選手・指導者の負担の増加、費用などの問題がある。研究して改善策を用意する」とし、ユン・ガンロ院長は「運動に専念したい学生もいるだろう。ヨーロッパでも少数のための道は開いている」と留保的な態度を見せた。一方、ユ・ジュンサン会長は「学生選手の学習権は保障されなければならない」と賛成の方に近い意見を出した。

■体育会-KOC 分離、ユン・ガンロ「条件付き賛成」

大韓体育会は 1920 年に創立され、大韓オリンピック委員会 (KOC) は大韓体育会の傘下に 1947 年に国際オリンピック委員会 (IOC) に加盟し結成された。その後分離、統合、完全統合して現在一つになった。しかし、大韓体育会が KOC を包括しながら予算や組織がオリンピックなどの国際大会の成績に集中するという批判を受けた。今分離して KOC はオリンピック選手団派遣、国際大会に焦点を当て、大韓体育会は生活体育などを強化しながら勝負至上主義文化を抜け出さなければならないという主張が出ている。

これに対してユン・ガンロ院長は「大韓体育会と KOC の分離は体育行政の専門化と望ましい生活体育文化を根付かせるために導入可能な前向きな案」だと原則的に賛成した。ただし両機関分離時の専門体育人材の分散、全体の予算減少などの問題が出るかもしれないとし、「体育行政全般にかかる予算をまず拡充し、生活体育が高度化できる詳細案を研究した後に行わなければならない」と付け加えた。李ギフン会長は分離より散らばっている体育担当省庁の統合を強調し、カン・シヌク教授とユ・ジュンサン会長は分離案について留保的な立場を取った。

問題 / 候補	李ギフン	カン・シヌク	ユン・ガンロ	ユ・ジュンサン
学生選手の全面的週末大会	留保的	留保的	留保的	賛成
	施設確保困難、選手・指導者負担、費用増大：研究を通じて効果的改善策を準備	指導者休息権、場所、費用、種目、進路特性など考慮要素：利害関係者公論化が必要	運動専念学生に良い決定では無い、ヨーロッパでも選手の為の道あり：妥当性調査が必要	学習権保障が必要 試合実績中心進学システムも内申、出欠、面接など反映
体育会-KOC 分離	反対	留保的	条件付き賛成	留保的
	分離より大統合必要。体育担当政府部署 13 に重複：政策ガバナンスのため国家体育委員会設置提案	体育人の意見集め優先。政治的決定には反対：体育人の自主性基本、公論の場で意見集約	冷戦時代体育、放漫経営脱皮のため必要：政府-体育会-専門家 3 者専門委で実行案導く	単純な分離法反対 専門家の意見を反映して慎重に多様な検討が必要
スポーツ人権対策	教育が解決法	教育が解決法	教育が解決法	教育が解決法
	体育人に特化した教育プログラム切実：2023 年に建立する体育人材開発院の専門研究施設活用	体育人の名誉、倫理、自尊心の鼓吹：システムは充分、常時監視強化で実行力高める	教育、暴力申告ホットライン開設、指導者処遇改善：米国などの類似法令を参考	指導者、選手成果主義、短期契約、不安定な生活基盤が問題：オーダーメイド型教育
体育人職場創出	投資拡大	生活体育強化	学校、生活体育強化	規定改正と支援
	4 次産業革命、非対面スポーツ、政策開発と投資、支援必要：体育団体共同スポーツマーケティング子会社設立	韓国型 'ゴールデンプラン'、学校-専門-生活体育連携で活動日常化：体育人雇用安全財団設立	体育会政策を牽引するアイデアバンクの役割：7 大職場拡充案を提示	体育人福祉事業運営規定を発展拡張効率性ある国家予算と支援：先進国型厚生策が必要

体育会長候補 4 名の主要論点立場

## ■選手の人権、ユ・ジュンサン 「教育の最優先課題」

政府は8月、スポーツ人権センターを設立した。スポーツ選手人権保護の独立機構が作られたのである。しかし制度が全てを解決するのではない。これと関連して4人の候補者は皆、教育の重要性を強調した。ユ・ジュンサン会長は「ミートゥーと暴力などの事件は人権保護システムの問題というよりも‘人間性’と‘教育不足’による人災だ。指導者と選手に成果を強調し、短期契約など不安定な雇用慣行なども問題だ」と指摘した。カン・シヌク教授は「法と制度などのシステムはできている。教育とスポーツ文化の改善を通じて根本的に解決しなければならない」と主張し、ユン・ガンロ院長は「指導者処遇改善が必要だ」と力説した。李ギフン会長は「2023年建立予定の体育人材開発院を専門研修院として活用し、教育を強化する」と強調した。

## ■雇用創出、李ギフン「マーケティング子会社の研究」

体育雇用問題は体育の専門知識と人材の活用、体育人の人間尊厳などと関係がある。新しい体育会長が最も苦心しなければならない部分でもある。4人の候補も完全に同意した。

李ギフン会長は「人工知能(AI)、ビッグデータ、非対面スポーツなど、新しい環境に素早く対処しなければならない。体育団体の財政自立度向上のために大韓体育会と種目、市道団体との共同マーケティング事業を通じた‘スポーツマーケティング子会社’の設立も一つの方法だ」と提案した。カン・シンウク教授は「学校体育、専門体育、生活体育の連携で体育活動が日常化できるようにしなければならない。体育人雇用安全財団設立も考えている」と述べた。

ユン・ガンロ院長は「雇用創出は生活体育の拡大が根本的な動力である。国民の体力向上、生活体育拡散のための予算の拡充と執行を行わなければならない。大韓体育会が単純な予算執行機関にとどまらず、政府の政策をリードすることができるアイデアバンクにならなければならない」と強調した。ユ・ジュンサン会長は「体育人福祉事業運営規定活用、効率性のある国家予算と支援、先進国型厚生案」を代案として提示した。

一方、国会4選と大韓サッカー協会副会長を歴任したジャン・ヨンダル前議員もすぐ出馬宣言をすることが分かった。

出典：[http://www.hani.co.kr/arti/sports/sports\\_general/972293.html](http://www.hani.co.kr/arti/sports/sports_general/972293.html)

## 02 亜洲経済 2020.12.03

### ジャン・ヨンダル文石大名譽総長 大韓体育会長選挙出馬宣言



ジャン・ヨンダル(73)ウソク大学校名誉総長が第41代の体育会長選挙出馬を宣言した。

「ジャン・ヨンダル大韓体育会長出馬記者会見」が3日午前10時30分頃、ソウル中区世宗路にあるプレスセンター20階国際会議場で開

かれた。

この日の行事にはジャン候補と李フエテク前大韓サッカー協会副会長、亜洲日報ヤン・ギュヒョン代表理事らが参加して席に花を添えた。

壇上に上がったジャン候補は「第41代大韓体育会長選挙出馬を体育人の前で厳粛に宣言する」とし「大韓民国体育の歴史が100年を迎えた。オリンピックなど国際舞台で世界のスポーツ強国を抜いて世界トップ10に進入した。これは大韓民国の経済成長と朝鮮半島の平和を導く足場になった。これらはすべて誇らしい体育人の汗と情熱で成し遂げた偉大な成果」だと述べた。

続いて彼は「しかし現在、大韓民国体育は危機が訪れた。現在の大韓体育会執行部はスポーツ界を分裂させた」とし「根幹である専門体育と生活体育は乖離しており、学校での正規体育授業が大韓民国の未来であるにもかかわらず後退している」と主張した。

ジャン候補は、この日の記者会見で5つの体育革新政策と公約を打ち出した。5つの公約は△体育の国家政策重心△人権が保障されたスポーツ民主主義△正しく働く大韓体育会△スポーツ福祉国家をリード△ソウル・平壤共同オリンピック誘致と南北体育交流の定例化である。

発言後、質疑が続いた。ジャン候補は第二の公約（人権が保障されたスポーツ民主主義）に関する質問に対して、「現在のスポーツ界では人権問題について責任を負う人がいない。今年、人権に関する大きな出来事が多かったが大韓体育会は責任を負わないままだ。スポーツ民主主義を達成しなければならない。選手、指導者などの管理・監督も重要である。人権問題が適切に解決されない時は大韓体育会長が責任を負う文化を作る」と話した。

「罰金」については「問題ない」と一蹴し、「一本化」については「候補者と交流している」と述べた。

今年は夢陽・呂運亨先生（モンヤン ヨウンヒョン 訳注：戦時中日本に対抗した臨時政府に参加、1936年まで朝鮮中央日報社社長、朝鮮体育会会長を務めた。1946年2月まで朝鮮人民共和国の副主席）逝去73周年忌である。ジャン候補はモンヤン呂運亨先生記念事業会副会長を15年務め、現在はモンヤン記念館名誉館長を務めている。日本植民地時代に独立運動家として活躍した呂運亨先生は朝鮮体育会（現大韓体育会）初代会長と朝鮮オリンピック委員会（現大韓オリンピック委員会）の委員長を務めた。記者会見の最後にジャン候補は、「大韓体育会長に当選すれば、朝鮮体育会初代会長を務めたモンヤン呂運亨先生の意志を継ぎ、大統領直属機関として生まれ変わりたい」と語った。

ジャン候補は大韓バレーボール協会会長、生活体育全国バレーボール協会会長、大韓サッカー協会副会長、国会議員サッカー連盟会長などスポーツ行政家として活躍し、国会議員（4選）、国会国防委員長、国会運営委員長を務めた。

出典：<https://www.ajunews.com/view/20201203111711972>

### 03 亞洲經濟 2020. 12. 02 [イ・ドンフンの100°C]

#### スポーツ倫理センター、「泣斬馬謖」の剣を振り下ろす



きゅうざんばしよく  
（訳注：泣いて馬謖を斬る。三国志の故事。規律を保つために、たとえ愛する者であっても違反者は厳しく処分することのたとえ）

8月にスポーツ倫理センター（以下センター）が発足した。故崔スクヒョン事件でスポーツ界が騒ぎになって二ヶ

月目だ。発足して三ヶ月目から四ヶ月目に入った先月 30 日、センターは韓国女性人権振興院と体育界セクハラ・性暴行予防及び被害者支援のための業務協約 (MOU) を締結した。

この日の協約式には朴ヤンオ文化体育観光部 (文体部) 長官と李ジョンオク女性家族部 (女家部) 長官をはじめ、李スクジンセンター理事長、パクボン・ジョンスク韓国女性人権振興院院長などが参加して席を賑わせた。

両機関は、△セクハラ・性暴行予防及び根絶のための相談・申告△被害者支援の相互協力関係の構築△被害者保護の措置△被害者相談・医療・法律など支援△体育界セクハラ・性暴行の厳正調査と事後管理などを協力することにした。

しかし協約の日、国内スポーツ芸能専門誌は「(スポーツ倫理) センターはまだ調査中」というタイトルの記事を報道した。この件は城南市タンチョンリンク暴行事件である。「10 月に申告した事件がまだ解決できなかった」ということと「城南市役所監督が天下りのセンター室長に手を回した」というのが報道の骨子である。

冷水をかけられたセンターは 1 日、公式チャンネルを通じて「その事件は 10 月に届出・受理され、現在調査を進めている。守秘義務があり公開するのは難しい」とし「記事に噂として言及された内容は事実と異なっている。天下りと指摘された事実も確認されていない内容」と配信した。

そうであれば、センターの現状はどうか。記者の取材の結果、調査を進めている捜査官は 13 人であり、これを前・現職の警察からなる専門チーム 15 人が助ける。現在受付された申告件数は合計 67 件である。調査官 1 人が平均 5 件を消化しなければならない。

城南市炭川<sup>ソンナム タンチョン</sup>リンク暴行事件は首都圏で起きたものだが、江原圏と南部圏も相当数あることが分かった。その中で江原道体育学校暴行事件の申告・受付日は秋夕<sup>チュソク</sup>連休前の 9 月であり、まだ調査が進行中である。この件を申告した A さんは本紙との電話インタビューで「調査官が江原道までやってきて、加害者として指名した学生を対象に調査を実施した」とし「何度も電話を介して進行状況を聞くことができた。息子が一方的に暴行された部分と、調査官の方が訪れて以降加害者に名指した生徒に冷やかされる部分は身震いするが、調査官の方が行政措置を注視しているというから、よく判断して選手資格剥奪などの処分が出ることを期待する」と述べた。

A さんは「全国を歩き回りながら状況を把握し問題点を指摘しなければならないので、困難があるように見えた。私たちも早急な処理を願うが、急ぐと逃す部分があるのではと心配になる」と付け加えた。

京畿道驪州<sup>キョンギ ヨジョ</sup>市には朝鮮時代の伝統刀剣を制作する職人である李ウンチョル刀剣匠 (訳注: 古代製鉄技能伝承者) が住んでいる。彼は粗悪な鉄の塊を熱してハンマーで叩く。畳んでまた畳み、硬く丈夫な鉄を作る。十回折りたたむ。

終わりではない。刃の形になれば、数十回叩いて磨いて形を整える。次は焼き入れの番だ。刃を高温で焼き、冷たい水で冷やす。少しでも誤差でもあれば刃がつぶれてしまう。彼は刀を作りながら「急いだらだめだ。刀をさらに鋭利に鋭く磨くには時間が必要だ」と強調した。

センターも同じだ。刃造りとして打てばまだ制作中である。間違っただけで急ぐと壊れてしまうように時間と手間が必要なようだ。叩いて熱い火に入れて、冷たい水に浸けなければならない。今、発足四ヶ月目だ。皆の懸念とは異なり、泣斬馬謖 (きゅうばんばしょく) のためには鋭い刀が研磨されなければならないのではないだろうか。

出典: <https://www.ajunews.com/view/20201202153948483>

## スポーツ界人権侵害情報提供および支援活動案内



体育市民連帯は

「トライアスロン選手死亡事件共対委」と

「民主社会のための弁護士会スポーツ人権チーム」所属

10数人の人権弁護士の方々と一緒に

被害者相談および法律支援活動をします。

スポーツ界人権侵害情報提供がされたら

初期相談を通じて法律支援が必要な方々を支援します。



下のアドレスに情報提供して下さい。

共同対策委員会



[forsportsreform@gmail.com](mailto:forsportsreform@gmail.com)

体育市民連帯



[sports-cm@daum.net](mailto:sports-cm@daum.net)

## 体育市民連帯オンライン 定期後援案内

万人が楽しむスポーツ世界、体育市民連帯が共に作ります。

私達連帯の活動に積極的に賛同していただくことを願います。

私たち体育市民連帯は体育人の権益保護と  
福祉実現のために努力しています。  
皆さんの小さな心づかいがより良い世界のための  
体育市民連帯活動に強固な土台となります。  
体育市民連帯会員として力になろうと  
される方は下の口座に後援お願いします。

国民銀行 086601-04-095940

口座名義：体育市民連帯

オンライン定期後援は下のリンクを通じてホームページからできます。

多くの関心をお願いします。

[http://www.sportscm.org/index.php?module=Inquiry&action=SiteInquiry&sMode=INSERT\\_FORM&inquiryNo=2](http://www.sportscm.org/index.php?module=Inquiry&action=SiteInquiry&sMode=INSERT_FORM&inquiryNo=2)

### INFOMATION

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号

Tel : 02-2279-8999、E-mail : [sports-cm@hanmail.net](mailto:sports-cm@hanmail.net) ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳：佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 [jr1fep@gmail.com](mailto:jr1fep@gmail.com)